

資料 1

地域館運営手法比較

*常勤=常勤一般職員、*図書館嘱託=現行制度において司書有資格者として公募、試験を経た嘱託職員、*嘱託等=図書館嘱託職員及び常勤以外の条件での採用職員

常勤の配置		あり(現行体制維持)	なし(新たな方式)			
図書館スタッフ		現行(又はその延長)の図書館職員		アウトソーシング		
方式		三層構造+業務委託拡大	図書館嘱託を中心	窓口業務・地域館業務の委託又は嘱託として雇用		
				市民団体、NPO	連携大学組織	民間業者
概要	運営内容	◇窓口・地域館に常勤を配置する	◇嘱託職員を窓口の中心に配置する(応援館でバックアップ)	◇窓口業務及び分館業務をアウトソーシングする。(全体業務は直営で行う) ◇アウトソーシングの対象は、上記の三者に大別される。 ◇本館に支援・連絡担当職員を置く		
	条件	◇常勤・嘱託等・臨時職員の増員 ◇土日班体制の見直し ◇少数精鋭のための専門的スタッフの確保	◇嘱託等・臨時職員の増員 ◇嘱託の給与体系等、制度の見直し ◇常勤・嘱託等・臨時職員の業務分担の見直し ◇土日班体制の見直し	◇受け皿となる市民団体等の存在	◇受け皿となる大学の存在	◇受け皿となる業者の存在(信頼・実績。図書館及び地域連携を理解し、柔軟且つ前向きに応じる姿勢がある)
特徴	主なメリット	◇継続性、一体性、安定性	◇継続性、一体性、柔軟性	◇「市民協働」の体現	◇「地域連携」の体現 ◇大学のノウハウ活用	◇企業のノウハウ活用 ◇職員の負担減→専門的サービスの拡大 ◇期間を区切った試行が可能
	主なデメリット	◇職員負担の増(労働条件、専門的能力要求) ◇硬直化の懸念	◇嘱託職員負担の増 ◇硬直化の懸念 ◇権限のちがいによる対応の遅れが出る懸念	◇継続性、安定性への懸念 ◇権限のちがいによる対応の遅れが出る懸念	◇継続性、安定性への懸念 ◇権限のちがいによる対応の遅れが出る懸念	◇継続性、一体性への懸念 ◇権限のちがいによる対応の遅れが出る懸念
	地区間の公平性	統一した体制によるサービス	統一した命令系統によるサービス	差異が出る可能性あり。←基本的なサービスが保障されれば、付加部分は地域性を出すことも可。		
	将来性	◇市民サービス拡充の限界	分業制が軌道に乗った場合発展性あり	受け皿の不足により発展性が見込めない	受け皿の不足により発展性が見込めない	軌道に乗った場合は発展性・拡張性あり
経費		42,000千円	24,000~30,000千円	(対象団体がなく、現時点では地域活動部分の試算不可)	(対象大学がなく現時点では地域貢献等の試算不可)	28,000~34,000千円